

多谷昇太

—ものまうす・政ごつ風—

法のけて好悪利害がすぶる世をえやはいはるる法  
治国家とぞ

民といひ民意といふ権力者汝(な)さばく神はいづくに  
ありや

この民の「さあ、どうする。」と興がるはおぞしからず  
や「他人の不幸は」かは

戦前はいのちかるけくいまそれ先なるもこころなくは  
たがはず

12 え許せめやかくたばかる世財官暴の望月欠けぬと  
ままなすからに

財官暴身で知るからにおぞしかり三角眼に壺とき  
るれば

村役と鳶役さらに胆入りがなべて仕切れるかはら  
ぬ世かも

おてもやんさしも寄りそね三役に力ばかりの世な  
らなくに

内閣も政治家ひとりをらずとも行はるべし政こそ  
おもへ

いまははた古(いにしへ)かへる兆しかな良民奴  
婢とへだてらるらん

是非のけてシーシェパードに感心すかくはづれし  
ことやすべき小市民冠者

はづるなら外道指向かいました冠者いじめののしり  
オンパレードなめり

今昔に冠者笑ふとは常もかも群れなしてしきり物  
笑へすめり〔※今昔・今昔物語〕

かひもなくありへるままの若者は外つ国行きて銃  
を取るどふ

頭からつまさきまでもマティリアル時代（いま）  
の本音をしめすがG I R L

三人（みたり）よれば文殊の知恵は昔にていまは  
ののしるあな憂（う）世の中

すれちがふひとの数ほど罵りのあまねく悪しきツ  
イッターの世となる

罵言いじめわがことなくは憎からず三猿しかずが  
世間にまさしく

1 3 三猿はあんじゃう住みてなごめきてすばしさうせ  
ば三つ犬せまる〔※三つ犬・中露朝や中東戦乱等〕

悪分限が霊視女つかひ統（す）ぶる世かわれば法  
われは律とほざくがに

劍太刀（つるぎだち）とぐるまきつつ悪ガキら悪  
分限の草履と合点す〔※劍太刀・枕詞〕

悪魔の謝肉祭とふ本ありてそらごとならでわが現  
（うつ）しとなる

坊主など政参せば国みだる霊視のさばりおなじか  
らずや

裏チャンを表に変へてながすならいかがかしか  
世みだるるか

塵無常となげくまもなし常ながら建てつ壊しつめ  
くるめく街

ひいふうみいよお何階ありやかぞへかぬ空へマン  
ションニヨキニヨキと建つ

魔法なめりすなはち変はる街すがたこころ萎へさ  
す高層マンション群

見晴るかす超高層はなにならむ先世の軍艦（ふね）  
の異様とぞおもふ「※民に印す財権力の姿と…」

今様の列強とふは如何なるや人間牧場その主の主  
たらむ「※イルミナティ、パナマ文書の面々と…」

払暁は勝ち組ゆや来む烏漕云ひねおごりの闇に踊  
るばかりぞ

韓衣（からころむ※防人の軍服）裾の悲しび今も  
かも先の大戦（いくさ）にいまの格差に

富みし世のなどで憂き世となりぬらむこころこ  
ろのきはまればなり

14  
文字持たぬアイヌの民は蛮なるかおごれる知をば  
封印せしかも

知ありき手もちて人わざはひをなしヒレもちてイ  
ルカ三不為の海に入る

真帆あげよ光の風の吹きわたる烏漕や世のひと神  
（らく※楽）をたのまじ

沖繩やなぐられければ男らに内地人としてハルサー  
もがも「※ハルサー…沖繩の女ウルトラマン」

アメリカと大和んちゆうの勝手中よくもいでたり  
ハルサーエイカー

基地中にすさぶまいぞる島娘きみのなさけに芭蕉  
はまねく

世に染まぬ宇宙人とか人の云ふあなかましかる地  
球のかはづ

「※元首相・鳩山閣下への悪口が我慢ならず斯く  
詠む。民・時代にあまりに先行された優秀さゆえ  
理解されなかつたのだらう。そんな我々を井戸の

中の蛙と自嘲するしかない。総理就任演説で「みなさん、経済の為の人間でしょうか、人間の為の経済でしょうか」と獅子吼された御姿が忘れられない。」

和歌集蛇足・人生和歌集と銘打ったからには歌集に連続がなければならぬと心得ますが、そうも行かずに申しわけありません。ヨーロッパから帰国後はすっかり目的を喪失した腑抜けのようになってしまいました、もっぱら場当たり的な人生となつてしまいました。六十過ぎの老人に至るまで記すべき何程の進捗もありません。その頃ステージの行った結構なガンとなりましてようやくこれではいかんと目が覚めた次第です。今は地獄のカーンダタの心境と状況ですが何とか頑張りたいとは思っております。。

従いまして今後の人生和歌集は時間的には不連続で、項目ごとに御披露したいと考えています。

どうかよろしく御高読のほどをお願い申し上げます。

